

令和3年度研究計画書

令和3年 4月 9日

研究種類	[基盤研究]		
研究課題	定点写真を活用した景観問題発見のための基礎的研究		
研究代表者	池口 仁		
研究期間	平成31年度 ～ 令和3年度（3カ年）		
共同研究者	小田宏伸（成蹊大学経済学部）・小笠原 輝（環境共生研究部）	研究協力者	成蹊学園サステイナビリティ教育研究センター
研究目的		研究目標	
<p>世界文化遺産富士山の眺望による価値の長期的なサステナビリティのために、現在モニタリング体制が法的に制度化され、運用されているのは眺望点定点観測モニタリングである。その結果（定点撮影写真）を用いて、富士山の価値の変化について、早期の変化の検知、検知した変化についての影響の判定を試み、富士山の保存管理の基盤的な知見を充実させることを目的とする。</p>		<p>1.モニタリング結果の変化の検知機能を付与するため、モニタリングの結果の眺望画像に変化をもたらした土地被覆変化を特定する。 2.信仰の対象・芸術の源泉という富士山の価値に土地被覆・景観の変化がどのような効果をもたらしているかを確かめることにより、価値を増す変化、価値を減じる変化、中立的な変化の判定のための指針の基礎を得る。</p>	
全体の研究計画	<p>1.定点撮影写真の分析による、富士山の視覚的景観の変化と視覚的景観に影響する土地被覆変化の特定（H31-令和2年度） 定点撮影写真の変化を抽出し、定点からの可視領域との対照からどの場所でどのような土地被覆変化が起きた結果、眺望が変化したのかを明らかにし、典型的な変化を抽出する。 2.定点観測写真を素材とした富士山の「信仰の対象」「芸術の源泉」としての価値の変化の確認 2-1 定点観測写真を刺激とする被験者提示実験により、被験者の価値判断の結果の変化、価値判断に伴う処理流暢性の変化の測定を行い、両者を総合して価値の向上・損失につながる土地被覆変化、中立な土地被覆変化を分類する。（令和2-3年度） 2-2 世界遺産富士山の区域及びそのバッファゾーンにおける土地被覆変化とその視覚的景観に与える効果の取りまとめ。（令和3年度） 2-3 前二項目の成果を元に、現在の保存管理体制の下で、どのような土地被覆変化・景観変化が起こり、富士山の世界文化遺産としての価値に影響しているか、価値の向上（価値の喪失）、価値へのアクセスの向上（アクセスの劣化）の観点で評価できるよう、評価の基礎となる知見に取りまとめる。価値の低下、アクセスの劣化をもたらす土地被覆変化については景観配慮上有効と思われる配慮の方法（代替策、影響緩和、代償措置の手法等）を既存の知見の文献調査等から添え、長期的な富士山の価値の継承の基礎資料とする。（令和3年度）</p>		
前年度研究計画及び研究成果	<p>1. 世界文化遺産富士山の登録推薦書のテキストマイニングにより富士山を形容する語の抽出を行った。 2. 実験に使用する眺望写真を選定し、H31/R元年度に抽出した風景の変化を付加した加工画像を作成した。 3. 1、2を刺激とする刺激-応答心理実験のコンピュータプログラムを作成した。 4. 被験者20名に対して3)のプログラムを実施し語への画像の印象の合致と応答時間のデータを得た。 5. 実験結果の一部を抽出し簡便に分析した結果、語への合致を判断する思考の流れは肯定判断をする系統と否定判断をする系統の、刺激に対する応答時間が異なる二系統あり、先に閾値を超えた系統が回答を決定するモデルが示唆された。</p>		
当該年度の実施内容	<p>1. 二系統判断モデルの妥当性の検証 過去に行った風景画像提示-応答時間計測実験（70名規模）の実験データが二系統モデルを支持するか分析し検証する。 2. 本課題での実験結果による土地被覆変化の影響の評価 二系統モデルからは風景の変化が「風景の意味の否定を強める（弱める）」効果、「風景の意味の肯定を強める（弱める）」効果の2種類の効果が抽出できることが期待できる。各画像に加えた土地被覆変化と2種類の効果の関係から土地被覆変化の影響の評価を行い、風景の変化についての判断指針の基礎となる知見を得る。 3. 研究結果の取りまとめと報告</p>		

期待される 研究成果	<ul style="list-style-type: none">○ 人の富士山への視覚に擬したモニタリング結果と、地域の土地被覆変化の関連の整理が行われる○ 実験的方法による景観変化の評価の基盤が整備される○ モニタリング画像をどのように評価すべきかの指針の基礎となる知見が得られる。
---------------	--